

常任委員会合同視察研修報告

報告者：文教厚生常任委員会委員長 渡邊圭太

日 程：平成 29 年 7 月 24 日（月）～25 日（火）

視 察 先：1. 和歌山県岩出市 藤本食品株式会社
2. 和歌山県日高郡印南町

視 察 項 目：1. 藤本食品株式会社本社・工場視察
2. 印南町の定住・移住施策について

参 加 者：総務産建常任委員会：川崎伸泰・梅村登次・佐曾利敏
文教厚生常任委員会：渡邊圭太・木村康夫・井戸亨・梅村和芳
帯同職員：河合総務課長・澤野教育課長・山田議会事務局長

今回の視察研修は常任委員会合同視察研修として議員全員で視察研修を行いました。初日は、平成 30 年 4 月に滝田工業団地 B 区画において操業を開始する藤本食品株式会社（本社：和歌山県）の本社・工場を視察しました。藤本食品は総従業員数 2,220 名で西日本を中心にスーパー向けの総菜製造などを手がけており、新設される富加工場では今後 350 人ほどの雇用が生まれるとのことです。約 1,600 坪の工場に定時 100 数十人の従業員が働いている状態になり、一日当たりの生産能力 70,000 食と見込まれその規模の大きさを窺うことができます。事業紹介・富加工場の詳細説明を伺った後、食品会社にとって一番大切なことである食の安全・安心に関する藤本食品株式会社の企業理念を聞きました。全てはお客様のために、衛生管理・品質管理の改善・向上に日々取り組んでいるようで、富加工場においても高品質な商品作りに努めて欲しいと思います。

本社における視察終了後、和歌山工場で生産しているお弁当をごちそうになりました。工場長が自信を持って提供して頂いたお弁当はとてもボリュームがあり、値段を聞いてその安さに二度びっくりしました。

午後からは工場内を視察しました。全身真っ白な工場内用白衣に身を包み、製造過程を拝見しました。和歌山工場は富加工場とほぼ同じ規模ということで一日当たりの生産能力が70,000食という規模を知ることができ、その規模に対して、富加町の農家の方が何ができるかを議員一同考えさせられました。一通り工場内を拝見した後、工場外を視察しました。食品を扱う上で外に漏れる臭い、使用した大量の水の処理、荷積みや搬送のためのトラックの騒音などに対してどのような対策をとっているのかを確認しました。富加工場においても工場周辺住民の方への配慮を徹底して頂きたいです。



二日目は和歌山県日高郡印南町（人口8,067人、2,919世帯）を訪問しました。これからの人口減少は深刻な問題で、そのための対策・施策を進めていかなければいけません。持続可能なまちづくりを進めるうえで、印南町にて行われている事業を参考にすべく、今回の研修になりました。地方創生関連事業では、大学連携によるまちづくり事業、若者があふれる郷への架け橋事業の説明を受けました。その中で、町の魅力発信として若者の目から見た町の魅力を発掘するため、移住推進のパンフレットや町の魅力を発信する動画を作成している。この動画は良くできており、ドローン

を使ってまちをより魅力的に見せています。そしてその動画をインターネット配信し積極的に情報発信をしています。空き家バンク事業では制度の概要や実績を説明して頂きました。平成20年からのこの9年で、空き家登録件数合計47件、利用希望者合計170人あり、賃貸17件、売買5件の成果があるとのことでした。富加町におけるこの事業はまだ始まったばかりで、とても参考になると感じました。定住のために仕事をどうするか、商工会のネットワークとのパイプを町が担う必要があると思います。働き方は多々あり、空き家バンクを通じて移住定住を進めていければと思います。

こども医療費助成に関しても伺いました。医療費無料の助成制度において、富加町では対象年齢が中学生（満15歳）までですが、印南町では高校生（満18歳）までなのです。一般財源では町民負担が多くなってしまうので、基金を再編して財政を転換したとのことですが、それをそのまま富加町で行おうとしても難しく思えます。しかし、子育て世代が他の市町村に流れないようにすることが大切だと考えると、切れ目ない福祉施策が大事であり、そのために富加町においてもこども医療費補助制度を充実させていきたいです。

この2日間の視察研修で、見たこと・感じたこと・考えたことを議員全員が今後の富加町のために活かしていきたいと思います。

